

そう だい しゅつ き
総 題 「出エジプト記」

だいさん か はらん まく あ
第3課 波乱の幕開け

さな だ おさむ
真田 治

いち あんそくにちご
1. 安息日午後

こんしゅう あんしよせい く しゅつ き ごしやういち にせつ よ
今週の暗唱聖句、出エジプト記5章1、2節を読みましょう。

モーセとアロンはファラオのもとに出かけて行き、言った。「イスラエルの神、主がこう言われました。『わたしの民を去らせて、荒れ野でわたしのために祭りを行わせなさい』と。」ファラオは、「主とは一体何者なのか。どうして、その言うことをわたしが聞いて、イスラエルを去らせねばならないのか。わたしは主など知らないし、イスラエルを去らせはしない」と答えた。

こんしゅう だい はらん まく あ
今週の題は「波乱の幕開け」です。

はらん こま お
波乱というのは、困ったことが起こることです。

まく あ はじ
幕開けというのは、なにかが始まることです。

はじ こま お はらん まく あ
なにかが始まる時に困ったことが起こったので、「波乱の幕開け」という題になりました。

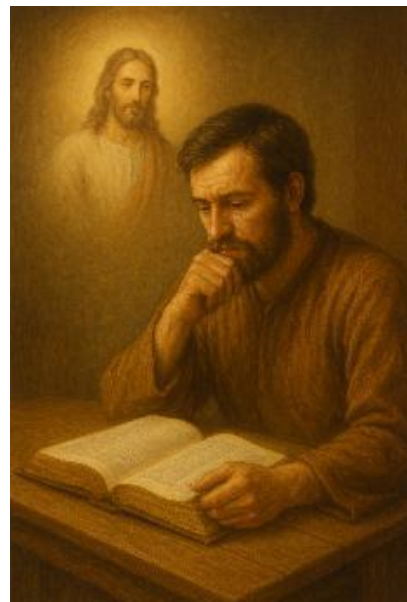
かみ い しごと はじ
神さまから言われた仕事を始めるために、モーセとアロンは、エジプトの王さまのファラオところに行きました。しかし、困ったことが起こりました。こんしゅう たいけん はらん まく あ まな
今週は、モーセとアロンが体験した「波乱の幕開け」のことを学びます。



に にちようび しゅ いったいなにもの
2. 日曜日：主とは一体何者なのか

モーセとアロンは、エジプトの王さまファラオのところに行きました。そして主なる神さまのことばをファラオに伝えました。しかし、ファラオは、「主とは一体何者なのか」と答えました。ファラオは、主なる神さまを知らないという意味で、「主とは一体何者なのか」と答えたのです。

わたし しゅ かみ し しゅ かみ
私たちは主なる神さまを知っています。主なる神さまのことばであるせいしよ わたし しん せいしよ か えいえん いのち
聖書を私たちは信じています。聖書には書いてあります。「永遠の命とは、ゆいいつ かみ つか
唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」(ヨハネ福音書 17章3節)。



3. 月曜日：波乱の幕開け

モーセとアロンは、イスラエルの人たちをエジプトから去らせて(出て)、ふるさとに帰らせてくれるように、エジプトの王さまファラオにお願いしました。しかしファラオは怒って、イスラエルの人たちに難しい仕事をさせるようになりました。だからイスラエルの人たちは、モーセとアロンが嫌いになりました。

モーセとアロンは神さまのことばのとおりに話したのに、ファラオからも嫌われ、イスラエルの人たちからも嫌われたのです。困ったことです。

神さまのことばのとおりにしても、困ったことが起こることがあります。もしも困ったことが起こっても、私たちは信仰によって、神さまのことばのとおりにします。



4. 火曜日：「わたし（神）」

出エジプト記 6章 2節でも、**6節**でも、神さまは「わたしは主である」と言っておられます。主なる神さまは、今までずっと、イスラエルの人たちを助けて、救ってくださいました。だから、これからもイスラエルの人たちを助け、救ってくださると、主なる神さまは言っておられます。

今までも神さまは、私たちを助けて、救ってくださいました。だから主なる神さまは、これからも私たちを助けて、救ってくださいます。

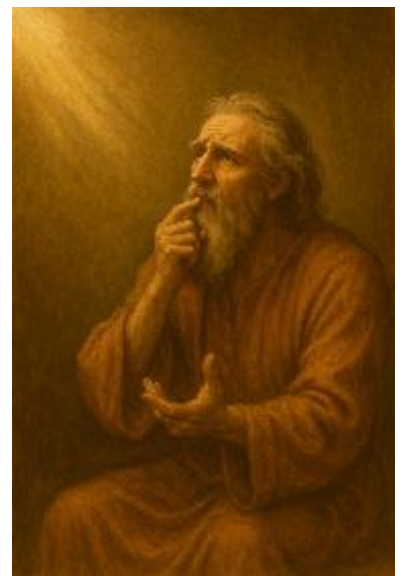


5. 水曜日：割礼のない唇

モーセは話すことが苦手だったようです。「わたしは唇に割礼のない者です。どうしてファラオがわたしの言うことを聞き入れましょうか」(**出エジプト記 6章 30節**)とモーセは祈りました。唇に割礼がないというのは、話すことが苦手という意味です。モーセは話すことが苦手なので、エジプトの王さまファラオを説得する自信がなかったのです。

モーセは、自分の正直な気持ちを神さまに伝えました。私たちもお祈りして、自分の正直な気持ちを神さまに伝えることができます。

モーセの正直な気持ちを聞いた神さまは、イスラエルの人たちをエジプトから去らせて(出て)、ふるさとに帰らせてくださいました。神さまは私たちの正直な気持ちを聞いてくださり、素晴らしいことを実現させてくださいます。



6. 木曜日：ファラオに対しては神のように

モーセは話すことが苦手でした。自分では話すことが苦手ですと祈るモーセに、神さまは答えてくださいました。
神さまからの答えが、**出エジプト記7章2節**に書いてあります。

「わたしが命じるすべてのことをあなたが語れば、あなたの兄アロンが、イスラエルの人々を国から去らせるよう、ファラオに語るであろう。」

アロンはモーセの兄さんでした。モーセは話すことが苦手でした。しかし、モーセが話したいことを、モーセの代わりにアロンが話してくれます。アロンが話してくれるから心配しなくても大丈夫だよと、神さまはモーセに言われたのです。

私たちにも、苦手なことがあります。私たちにも、できないことがあります。できないことや苦手なことでも、神さまに正直にお祈りしましょう。私たちを助けてくれる人がいることを、神さまは教えてくださいます。



7. 金曜日：さらなる研究

旧約聖書の**イザヤ書55章10、11節**を読みましょう。

雨も雪も、ひとたび天から降れば

むなしく天に戻ることはない。

それは大地を潤し、芽を出させ、生い茂らせ

種蒔く人には種を与える

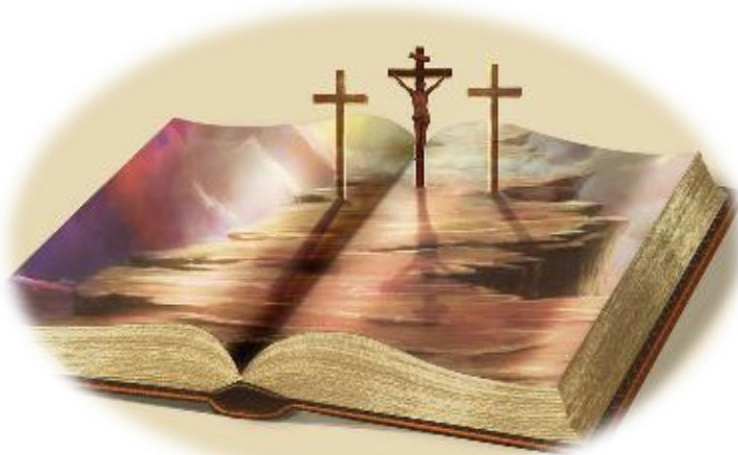
食べる人には糧を与える。

そのように、わたしの口から出るわたしの言葉も

むなしくは、わたしのもとに戻らない。

それはわたしの望むことを成し遂げ

わたしが与えた使命を必ず果たす。



天から降ってきた雨や雪は、神さまの計画が実現するために用いられます。神さまの計画は、田畑の作物が実って、私たち人間の食物になることです。

天の神さまが語られたことばは、神さまの計画です。神さまの計画は実現します。

イスラエルの人たちがエジプトを去って**（出で）**、ふるさとに帰るといことは、神さまの計画でした。

イスラエルの人たちがエジプトを去って**（出で）**、ふるさとに帰るとい計画は、実現しました。

神さまの一番大切な計画は、イエスさまの十字架でした。私たち人間の代わりに、イエスさまは十字架に架かって、私たちの罪をゆるしてくださいました。

神さまのことばである聖書を信じましょう。十字架のイエスさまを信じましょう。